

2 市立小中学校におけるオーガニック給食の導入について

- (1) 子どものために地域のオーガニック野菜やお米の給食導入について早急に検討してはどうか。
- (2) 地産地消コーディネーターの設置について

【答弁】

2 市立小中学校におけるオーガニック給食の導入についての(1)、(2)につきましては関連いたしますので、一括してお答えいたします。

本市の学校給食では、現在、一日に小学校約5600食、中学校約1500食もの大量の給食を提供しており、児童生徒の皆さんが安心して食べていただける安全な給食に日々努めているところでございます。

また、学校給食で使用しています大量の野菜やお米の食材につきましては、安定供給のため、本市小・中学校給食会で納入業者登録された青果業者や公益法人大阪府学校給食会から購入しており、あわせて、地産地消を進める観点から食材の一部は、関係各課の協力を得て、地元農業者団体から富田林市地域で生産された農産物を納品して頂いており、折に触れ児童生徒、保護者の皆様にも地元農産物の情報提供を行っているところでございます。

議員ご指摘のいわゆるオーガニック野菜やお米の地域食材の利用は、最近の世界的な食の安全性や健康への関心が高まるなか注目されています。

しかしながら、学校給食でこのような食材を利用する場合には、大量調理に適する、形が一定そろったものであることや、納品日に一定量供給が可能なこと、納入価格の面など、様々な課題がございます。

本市教育委員会といたしましては、このようなことから関係各課とも連携を図りながら、市内における農産物の生産の状況把握などを行い、献立作成や食材の検討をする小・中学校給食会において、オーガニック野菜などの情報提供を行うとともに、先進市の状況を調査研究してまいりたいと考えております。

また、「地産地消コーディネーター」は、地場産生産者と学校給食をつなぐ調整をし食材の納入を行うものと認識しているところですが、先ほど申し上げました学校給食に利用する食材ならではの課題もございます。従前からの食材の納入方法に加えて、安全安心な地元食材を学校給食に供給することで、児童生徒の皆さんに地元農産物に関心を持ってもらうなど、給食を通じた食育にもつながるものと考えますことから、今後も、関係各課とも連携しながら調査研究してまいりたいと考えております。